

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷五十五第

月七年七十和昭

論叢

南方農業に於ける勞働力の問題…………… 經濟學博士 八木芳之助

佛印に於ける貯蓄及資本に就いて…………… 經濟學博士 松岡孝兒

ナチズの貨銀保護政策の原理…………… 經濟學士 中川與之助

資本形成の意義…………… 經濟學士 中谷實

實物的波及過程の彈性分析…………… 經濟學士 青山秀夫

研究

協力工業の技術的向上と再編成…………… 經濟學士 田杉競

成果學說の理論的根據…………… 經濟學士 尾上忠生

說苑

大島貞益の譯書及岡田好樹…………… 經濟學博士 本庄榮治郎

「經濟之理」について…………… 經濟學士 上杉正一郎

シエーパースの國土計畫論…………… 經濟學士 上杉正一郎

附錄

彙報

シェーパースの國土計畫論

上杉正一郎

本稿は「地政學雜誌」に掲載されたH・シェーパース (Hans Julius Schepers) の二論文“Geopolitische Grundlagen der Raumordnung im Dritten Reich”¹⁾ 及び“Geopolitik und Raumordnung”²⁾ に見られる國土計畫論の紹介である。

右の二論文のうち前者はドイツ國土計畫局 (Reichsstelle für Raumordnung) 創設(一九三五年六月二十六日)の布告による(の翌年即ち一九三六年一月に、後者はK・ハウスホトフアー (Karl Haushofer) 第七十回誕辰記念號(一九三九年八月・九月號)のために書かれたものであつて、何れも國土計畫に於ける地政學(Geopolitik)の役割の主張をその目的としてゐるが、こゝでは地政學自體の問題には觸れず、主として次の四點、即ち一、國土計畫

1) Zeitschrift für Geopolitik, Jg. XIII, Ht. 1, Jan. 1936, S. 17-32.
2) Zeitschrift für Geopolitik, Jg. XVI, Ht. 8/9, Aug./Sept. 1939, S. 547-550.

の二面性、二、國土計畫の必然性、三、國土計畫の任務、四、特に國境地帯に於ける國土計畫に關する所説を紹介する。

(註) シェーパースの論ずる處は國土計畫一般ではなく、ドイツ國土計畫に關するものである。尙此處に紹介する二論文のうち前者に關しては、K. Hanshofer: Geopolitik als Grundlage jeder Raumordnung. Ein Nachwort zu Cammer und Schepers. (Z. f. G. Jg. XIII, Hft. 2, Feb. 1936, S. 128-130) 参照。

二

シェーパースによれば、國土計畫 (Raumordnung oder Reichsplanung) は二つの意味即ち内政的並に對外政策的の意味に於て理解されるべきである。或は國土計畫には二様式があるとも言ひ得る。内政的の意味に於ける國土計畫——國土計畫局の實際活動——が有機的な國內建設により國に堅固性と永續性とを保證するに對して、對外政策的の意味に於ける國土計畫は内部的な力を外部に對して有効に利用せしめるものである。勿論兩者は相互に切離しては考へられず、緊密に統一してゐなけ

ればならない。例へば國內生活圏の保全により國民は初めて全世界に互る目標に眼を向けることが出来るのである。かやうに國土計畫は單に國內のみの問題ではなく對外的な面をも有つてゐる。この國土計畫の二面性は地政學的に見たドイツ生活圏の二面性に照應してゐると考へられる。即ちドイツ生活圏 (生活空間、Lebensraum) は内部的には自然的中心空間 (natürlicher Zentralraum) を有せず、對外的には自然的境界 (natürliche Grenze) を缺いてゐるのであつて、この恵まれないドイツ空間の状態が國土計畫 (空間整備) ——内外兩面に於ける——を必然たらしめてゐる。蓋し地政學の主張によれば、空間こそ各國の成立・繁榮・没落を規定する原因だからである。

國土計畫の二面性並にそのドイツ生活圏との關聯は右の如くである。シェーパースは國土計畫の二面のうち特に對外政策的な面の認識を強調してゐるが、これは一方に於て一般に地政學の學問的性質の然らしめるところであると共に、他方に於て國家的・國民的限界

内に止らざる政治思想を有ち、且「一國家は之を諸國家と共にのみ見ることが出来る」といふ事實を理解する政治層の育成が國家的必要となつたからである。

勿論シエーパースも單に對外政策の面のみを一方的に強調するのではない。このことは前述の箇所からも察せられるが、更に又對外政策は健全な國內政策——國土計畫こそその最強の支柱である——の上にのみ樹

てられると述べてゐることによつても明らかであらう。たゞシエーパースの考へ方としては、ドイツを對外的に強力ならしめ外部からの壓迫を防衛することが目的であり、この目的達成の前提として内政的意味に於ける國土計畫が必然とされてゐるのであつて、この點はシエーパースの國土計畫論を理解する上に注意を要する處である。

(註) シエーパースはドイツの地政學的特徴をフランスと對比して説明する。即ちフランスの諸河川はパリー盆地から放射狀に流れて居り、この盆地がフランスの自然的中心空間となつてゐる。その結果フランスは國內に於ける有機的整個性並びに外部に對する首尾一貫せる力を備へてゐる。然るに

ドイツ生活圏の内部構造はこれとは全く異り、北ドイツ平原を平行に流れる諸河川・中部ドイツの山脈・國內領域から流れて去るドナウ河等何れも自然的中心空間の形成を妨げてゐる。又ドイツ生活圏は巨大なるロシア——そのアジア的暴君は苦惱に慣れた國民を歪められた太古的ユートピア的人類理想のための戦に驅り立ててゐる——と民族的・文化的に分解し且資本主義的生活圏を有つ西歐との中間に在り、地理的にはその何れにも所屬してゐない。而もこの二つの對立の世界に對して何ら明確な境界を有つてゐないのである。

三

シエーパースによれば、國土計畫即ち空間の綜合的計畫並びに整備 (die zusammenfassende Planung and Ordnung des Raumes) の必要は決して偶然に歴史上に現はれ來つたものではなく、諸國民の成長に基く空間の狭さの歸結である。特に當面のドイツに關して言へば、それは單にドイツの歴史的過去より生じた必然の結果であり、國家社會主義によつて初めてその實現が可能となつたにすぎない。蓋し國家社會主義的世界觀が初めて血と土地 (Blut und Boden) の認識から國策上必要な結論を引出すことを教へたからである。

かくの如くシェーパースは國土計畫の必然性を國民と國土或は空間との關係から説明する。更に具體的に言へば、國民の量的發展と自然には變化せざる土地諸要素——土地から現實的成果を獲得し得るのはたゞ合理的計畫的經濟のみである——とを對置し、これによつて土地政策のみならず組織的計畫——人間大衆と土地不足とが最も著しく對立した諸都市から出發して——が必要となつた所以を説明してゐる。

四

以上の如き觀點からドイツ國土計畫の必然性を説くシェーパースはその任務に關して次の如き見解を有つ。即ちドイツ國土計畫の最も主要なる任務は國家社會主義的な定住政策(Siedlungslehre)並びに人口政策が空間的基礎を自由に處理し得る如くに國土計畫を形成することである。又それは國家社會主義的農業政策と最も緊密に結合してゐる。蓋し農業政策は同時に經濟政策・人口政策・民族政策であり、且國防政策の基礎でもあるからである。かくして農業政策は國土政策

(Raumpolitik)であり、國土政策が國土計畫なしに存立し得ないことは國土計畫が農業政策の目標を離れて計畫され得ないのと同様である。

國土計畫に於ける農業政策の重要性の強調はシェーパースの所論の一特徴と考へられる。これに反して工業に關しては、その積極的發展よりは寧ろ工業發展に伴ふ弊害の除去或は豫防に意が注がれてゐる。例へば工場新設に就てもその立地問題を無思慮に解決することなく、立地問題が國土政策・人口政策上の要求に相應するやうに氣をつけるべきであり、かくしてのみ工場の危險なる塊狀集中(Ballungen)並びに道德・健康に有害な人間詰込(Überfüllung)を免れ得るであらうとしてゐる。これは一九一八年のドイツ崩壞の根因を工業の塊狀集中が惹起せる大都市への無政府的國內移住(anarchische Binnenwanderung)或は非有機的人口構成の中に認め、新しい國土計畫は決して自然經濟時代に復歸すべきではないが、歴史から教訓を得べきであると主張してゐることゝ關聯してゐる。

次いでシエーパースは國土計畫は國土防衛に對して空間的な基礎を興へるべきであるとする。これはドイツの位置が不利なる結果として當然生じて來る重大な任務であり、かくして最良の意味に於ける國土計畫としての防衛戰略 (Verteidigungsstrategie) が不可欠の要件となる。本來ドイツ生活圏は全く防禦面を有たないが、地政學的國土計畫はこの事實を考慮しなければならぬ。更に國民必須の需要——シエーパースは最も重要なものとして食糧を擧げてゐる——を害せざるやうに國防上の土地需要を統制することも國土計畫の任務 (間接的ではあるが) とする處である。

(註) シエーパースはこの問題を解決する基礎として大規模な交通政策の必要を指摘してゐる。

五

國土防衛上の任務と關聯して國境地帯に於ける國土計畫は極めて重要な意義を有つ。シエーパースは國境地帯を隣國からの凡ゆる侵入に對する防禦裝置として完成すべきであると主張してゐるが、特に國境に於ける國土及び國民整備計畫 (raum-u. volksordnende Planung)

に課せられる任務は多種多様であつて、「國境が外部からの壓迫に耐へ得るやうに、人種的に最良にして精神的に最も價値多く且經濟的に最も強健なる人々を國境に据ゑるやうに努めなければならぬ。」

國境地帯を防禦裝置として完成する手段としては特に定住政策が擧げられる。蓋し土地は鋤によつてこれと最も密接に結びついてゐる者にのみ所屬し得るのであり、又農民の移住、鋤と劍との結合としての植民のみが地理的空間を現實的・有機的に支配し得るからである。

尙シエーパースによれば、過去百年に亘るドイツ國內政策の最も著しき國土政策的特徴は東方より西方に向ふ人口移動、従つて又東部ドイツ稜堡の武装解除と西部ドイツに於ける工業の塊狀集中——危險に對して敏感な——の創出であつた。「東部ドイツの貧血に西部ドイツの充血が相應した。」茲に於てシエーパースは新たな國民意志の表現として西より東への移動を起すことこそ國土計畫の一大任務であるとなし、この目標を達成せんがために東部國境地方に農民定住 (Bauern-

speaking) を行ふことを提唱してゐる。これは國外からの壓迫は殊に東部に於て著しいとの認識とも關聯してゐるが、同時に資本主義時代に見られた「國土政策的必然性の誤認」に對する反省乃至修正である。シエトパースの國土計畫論の有つ意義も一つにはこの點に存すると考へられる。

六

國土計畫特に其の任務に關するシエトパースの所説は大體以上の通りである。シエトパースの主張する限りに於ても國土計畫の任務とする處は極めて重大であり、その影響の及ぶ範圍も廣く、従つて克服すべき困難或は障害も多いと考へられるが、シエトパースは「我が國の有つ位置の不利に對して、我々は、共同體への意志の力・イデオの力を土臺とする國土計畫を對置しようと思ふ。このイデオが血に充てる (blutvoll) 人々に魂を吹き込む限り我々は成功するであらう。」と結論し、任務實現の可能性に就いて抽象的ではあるが極めて樂觀的な見解を採つてゐる。此處にも亦シエトパースの所説の一特質を認めることが出来る。